

構造-演習問題 2

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に**余白に描き出して**みてください

ウラ模試 1

[No.14] 鉄筋コンクリート構造の許容応力度計算に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 曲げ降伏する両側柱付き耐力壁の靱性を高めるために、側柱の帯筋量を増やした。
2. 地震時に曲げモーメントが特に増大する柱の設計において、短期軸方向力（圧縮）を柱のコンクリート全断面積で除した値は、コンクリートの設計基準強度の $2/3$ 以下とすることが望ましい。
3. 柱部材の長期許容せん断力の計算において、帯筋や軸圧縮応力度の効果はないものとした。
4. 柱の長期許容曲げモーメントの算定において、コンクリートには引張応力度の負担は期待せず、主筋と圧縮コンクリートを考慮して計算を行った。

ウラ模試 2

[No.11] 鉄筋コンクリート部材のせん断耐力に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 鉄筋コンクリート部材の柱のせん断耐力は、一般に、柱に作用する軸方向圧縮力が大きいほど大きくなる。
2. 一般に、鉄筋コンクリート構造の柱部材の内法寸法が短いほど、せん断耐力は大きくなるが、靱性能は低下する。
3. 鉄筋コンクリート部材の柱のせん断耐力は、一般に、帯筋に降伏強度の高い高強度鉄筋を使用しても変わらない。
4. 部材のせん断耐力を計算する場合のせん断補強筋の材料強度は、JIS規格品の鉄筋であっても、せん断破壊に対する余裕度を確保するために基準強度の割増しはしない。